YH 賞 2024（第 4 回受賞作品）について

岩村　遠　《Neo Jomon: *Stacking Neighbor*》　2024 年制作

当館学芸員が「YH 賞」に相応しいと思われる若手作家らを候補に挙げ、彼らの発表する作品を注視してきました。岩村氏は、2013 年に金沢美術工芸大学大学院修士課程を修了後、単身、アメリカに渡り、2018 年に帰国するまでアメリカで活動をしていたため、日本での展示機会はまだそれほど多くはありませんでしたが、特に若手作家らの間で注目されており、当館としても気になる存在の一人でした。陶によるユニークな人物像をメインに制作しながら、絵画やドローイング、デザインも手がけるなど、多分野にわたって活動している岩村氏は、陶芸作家として認識されることが少ないかもしれませんが、工芸の基礎をしっかりと日本で学んだ後、アメリカの現代アートシーンで鍛えられるという得難い経験を活かし、カラッとした軽快さも感じられる独自の作風を確立して、唯一無二の存在感を示しています。そして、2024 年 9 月から 10 月にかけて北陸地方で展開された「GO FOR KOGEI 2024」に招待され、屋外展示の大型作品を含む意欲的な新作 7 点を纏めて発表したことが、今回の受賞の大きな後押しとなりました。

岩村氏の作品はすべて紐作りで成形し、頭部のみか、頭部と胴部を組み合わせたものが多くなっています。フォルムはシンプルに簡略化され、表面全体に波のように折り重なる曲線の線文を施し、その上に原色や蛍光色のような鮮やかな色彩のマット釉が施されています。土による素朴な土着性を残しつつ、人物像はキャラクター風の明るくポップな現代的イメージですが、目や口が空洞となっており、よく見ると、古代の土偶や埴輪のような、どこか呪術的で怪しげな表情が滲み出ています。人間という根源的で普遍的なテーマを、「かわいい×不気味」「生×死」などの相反する要素を対比させながら、その「間（ま）」に漂う曖昧さを鑑賞者と共有しようという試みで、作品が置かれる空間にもこだわり、自身の背丈を超える大型作品にも精力的に取り組んでいます。

本作品は、近年、制作している《Neo Jomon: *Stacking Neighbor*》シリーズの最新作で、子供がカラフルな積み木を思い思いに積み上げていく様子から着想を得たものです。親しみやすい面白さがあり、これまでの陶芸にはない、どこか異質の新鮮さやインパクトも感じられます。いわゆる純粋な立体造形を志す若手作家が年々減少している中、確かな手仕事と現代性を合わせ持つ岩村氏のこの作品が、YH 賞受賞作として当館へ収蔵されることで、若手作家らの奮起も促したいと考え、本作品を「YH 賞 2024」（第 4 回受賞作品）に決定しました。

岩村　遠（いわむら　えん）氏について

Photo Gentoku Katakura

1988 年　京都府長岡京市に生まれる
2013 年　金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科修士課程工芸専攻修了
2016 年　アメリカ・サウスカロライナ州クレムソン大学大学院修士課程（美術）修了
2016-2018 年　アーチブレイ財団にて滞在制作、アメリカで活動する
2019 年より滋賀県甲賀市信楽町にて制作する
2022 年　ホモ・ファーベルの断片（愛知県陶磁美術館）
2024 年　GO FOR KOGEI 2024（富山・岩瀬エリア）
海外を中心に個展、グループ展で作品を発表

岩村　遠氏コメント

この度は素晴らしい賞を受賞でき大変光栄に思います。選出していただいた YH 様、美術館の皆様、日頃私の制作を支えてくれる家族、友人に感謝を伝えたいと思います。

思い返すと私のこれまでのキャリアは『受賞』という言葉からは縁遠いものでした。学生時代から作家として活動する今に至るまで、どのくらいの賞やコンペティションに応募したのか思い出せませんが、ことごとく入賞を逃し続け、その度に自分の制作活動に疑問を覚える。その繰り返しの中でも自分の信じる作品制作に没頭しようと自らを鼓舞してきた事を思い出します。

作家活動を続けていくことは「不確定なもの」との日々の戦いのように思えます。やきものを続けて来て、いつまで経っても上手くいくという経験はありませんし、安定していると感じた事もありません。そういった不安定な毎日を過ごしていく上で今回の「受賞」の経験はこれからも制作を続けていく糧になると信じています。

【お問い合わせ先】　〒669-2135　兵庫県丹波篠山市今田町上立杭 4
兵庫陶芸美術館　学芸課　マルテル坂本牧子、村上ふみ
Tel　079-597-3965（学芸課直通）　Fax　079-597-3967